

宮城縣の挨拶并受領證
去る二十一日を以て宮城縣に送付したる義捐金に對し
同縣知事の挨拶狀并に受領證は左の如し

東京 時事新報社 御中
第八六〇號
一金四千七百六十七圓四十八錢七厘
但海嘯罹災者救助費トテ寄付
右正一領收候也
明治廿九年七月廿四日
宮城縣知事勝間田龍

社説 會社の風紀

商賣の要は利益の一點なれども其利益を得るの法は
引運動活潑自在にして然かも放縱に流れず小必賢々の
中に大膽に舉動して事を決し進め他の牽束を受けざる
が如き最も必要にして一個人と集合體とに拘はらず其
心算は何れも同様ならざるを得ず今の銀行其他の株式
會社の組織には商法の規定あり又株主の定めたる定款
ありて一方には役員の權限を明にして其舉動を牽束し
一方には株主の權利を保護して苟も専断を許さざるの
注意甚だ密なり法律の約束は社會百般の人事に欠く可
らざるの常にして商賣の取引も最後の手段は法律に據
らざるを得ざるのみか日常の事も文字の約束に依頼す
るもの多し即ち規定の必要ある所以なれども是れは表
面の公法にして會社の内部に至りては自から然らず定
款の約束はありながら其約束は實際に恰も無用にして
株主は役員を信用して總て之に委任し役員は自から任
じて思ふ存分に事を行ひ双方共に默許會として圓滑の
間に事の運びを敏捷ならしめ利益の目的を達す可し彼
の政治論の如きは政府も人民も唯一の憲法を楯として
互に權限を云々し國會の議場に双方共に火花を散して
争ひながら當局者は之が爲めに戒心して舉動を謹むな
き政治の進歩は法律の争論に由る見るの場も多けれ
共會社の事は全く別にして約束は固より必要にして欠
く可らずと雖も實際には恰も其約束を忘れて只管事
に忙しき有様に非ざれば營業の繁昌は到底東東なし商
賣上に權限は全く禁物なりと知る可し擬實際に顧み
て今の會社の有様を如何と云ふに多數の中には其創
立も古くして基礎既に成り役員も専断して唯其名
あるのみにして其實は會社固有の習慣情實に由て行は
るもの多し非ず是種の會社にては其體面を重んずる
理の或る役員等は身は恰も一種の世襲官の如く
にして自から其地位の尊嚴を信じて假令は職務の實際に
是の體面なきも其意向の如きも其體面に準じて
是の體面なきも其意向の如きも其體面に準じて
是の體面なきも其意向の如きも其體面に準じて

事の實際を云へば彼等の私行如何は強ひて咎む可ら
ざるに似たれども其風紀に一點の欠くる所あれば
自から種々の失態も生ずるの常にして世間にては早く
既に其風紀を傳へて株主の心を驚かすに至る可し或
は從前の有様ならんには役員等の居家處世又は其
職務の法に多少の不都合怠慢あるも之を怪しむる
ものなかりしかども今日は一様の進歩と共に株主の
體面も頗る世情に通じて銘々の利害に直接の關係
ある事柄は決して之を隠して看過せず斯る輩に委任し
て事に當らしむるは不安心なり此儘に捨置く可らずと
て不快の念を懐く其種は定款の約束を云々して或は役
員改選などの説を發するに至るやも知る可らず株主の
身と爲れば斯る概念も敢て無理ならず即ち始めて法律
の必要を見る場合に於て會社の商賣上に斯る成行は甚
だ面白からず我輩の聞くを好まざる所なり或は其風紀
云々として實際には特別の事にも非ず只一言の戒めに
て充分なるが如き愚末事もあらんれども兎に角に株
主をして不安の心を催はさしむるは役員等の平生に足
らざる所あるが爲めに外ならざれば今の會社の役員た
るものは時勢の一變を顧みて自から舉動を謹み勉め
て風紀を嚴肅にして商賣社會に動もすれば法律論の發
生を見るが如き惡習慣を造らざるに注意せんと我輩
の呉れし所なり

○日佛條約改訂談判の結了
豫て彼我全權委
員の間に進行中なりし日佛條約改訂談判は既に結了し
て目下調印の手續中なりと云へば速からず調印済の報
道に接するならんやと云ふ

○キユーバ反將の戦死
キユーバ島より西班
牙政府へ達したる公文電報に據れば反將コセオは過日
の戦に於て戦死せりと云ふ

○支那江蘇反徒の横行
南京より支那ガゼツ
トへ達したる電報に據れば江蘇の北部に起りし反徒は
其勢ますます加はりて牽掣横行し到る所なく先月下
旬或る地方官は一隊の兵を率ゐて鎮壓の爲め反徒の
を攻撃せしに却て反徒は其償金として一萬兩を差出せば之を
りし由にて反徒は其償金として一萬兩を差出せば之を
解放す可し然らざれば殺害せんと威嚇せり又彼等は馬
賊會堂を破壊せしに上り宣教師に重傷を負はし勢當
り難きに依り地方官は電報を以て頻りに北京及び南京
へ兵卒の派遣を請求せしかば南京總督は七千の兵をし
て彼の地へ赴かしむ可しと尙ほ支那官吏は反徒の數を
二萬以上なりと推算すれども是れは風聲鶴唳に驚きた
る臆測にして其實三四千に過ぎざると云ふ

したら電 (七)

第六回 俱樂部
ワンダは初め入りたる口と違へる他の道より案内
せられて地下の室を出でたり。コロレフは積車の
待てる邊まで隨從しぬ。
此處なる氣味を物ともせずコロレフは勇れた
る馬を介抱りながら身動きもせず彼の歸るを待ちつゝ
あり。
五分程の途中、一時間前カーチヤが入りし雄然たる
家の前を來て車を停め、コロレフには此處に待
てど命じ、一散に走るを見て、露西亞の國俗として家

の前に佇立せる番人に向ひ、
「入つても好うござりますか？」
「誰方を尋ねざしやる？」
「彫刻師のアレキサンダーラサレフ。」
寒氣と精進で茫然したる番人は戰慄をしてワンダの
家に入るを默許しぬ。
ワンダは家に入り階子を三段登りて戸をホト／＼と
叩けば階子とランディングを臨める木造の小窓を開
きて現はれたる顔ありき。
ワンダは我が名を名乗りぬ。忽ち戸は響きを馳らし
て開きぬ。前房は事務室にして更に狭き戸を開て、奥
の方は廣き室なりき。
「ワンダクルイローフ公主ですナ、」と内部より聲掛
けて奥内せられし集會處は天井より釣りたるランプに
照らされたる廣間で、其處此處に事務用の書卓を茶卓
に變へたるが据ゑられ、其上にはサモワール(湯沸し
の類)と騎人が茶を飲むに用ふる硝子碗がありて、之
と共に新聞雜誌其他の書籍が置かれたりき。
凡そ五十人は此處に集まりて茶を飲み、且つ
読み且つ書き且つ談じてゐる。此夜は特に協議或は執
務すべき特別の用事もなければ各々取極めなき談話に
餘念なかりしが、之は即ち無黨派員が日々の交友の會
合で、緊縮の眼を掠めて踪跡を暗さまが爲め此處や
彼處と處定めず集りて朋友の書翰或は禁制の印行書を
讀み若くは無黨派に對して其政を論議する場所であ
る。若し俱樂部の一員が特に必要なる事項を語らん爲
め暫時の沈黙を望む時は衆人は必ず熱心をして傾聴
す。此種の俱樂部がメテルブルグは勿論露西亞の處の
都府毎に存在するは近頃無黨派の運動がやゝ公然とな
りて頗る顯明に傍若無人に振舞ふからである。
五十年前に此運動は初まりて、茲に五十年前智識あ
り教育ある人間の階級はカイザリズムに反抗しぬ、ニ
コライ勅諭以後其階級は激しくなれり。奴隷解放
の恩恵は實に輿論の結果にして帝者の意の臨時に預れた
るものにあらず。少壯なる露西亞の人民は意氣揚に堂々
と歩して其勢力を奮けり。渠等の志す處は好人物
のアレキサンドルが呈出せる意味なき姑息の改革にあ
らずして真正なる全社會の再造にあり。此宗教と皇帝
の權格の下に制せらるる意氣揚なる露西亞の中より自
由なる國民を作らんとするは露西亞革命の不可なる勇
猛心にして其偉大なる力は西方國民の御都合主義には
到底見るを得ざるべし。露西亞の運動は常に非常なる巨
變にして單に其黨の多きと其改革せんとする國俗の
激進なるのみならず其深遠なる過激説と其使徒の猛烈
なるとは實に驚目すべき現象である。
俄然露西亞は自ら飛んで自由の域に入り宗教及び祖先
の偏見を脱却せんとせり。此激進の獨立心を以て茲
に無黨なる名を興ふれども露西亞は實に一の無黨を
有たず、唯露西亞の自由及び權利を振起する政理學者と
自由思想家と博愛主義の人とあるのみ。
渠等は古來久しく嚴禁せられしが故に今は半自由を
以て満足するを得ず。本と露人は何事も半途にして止
む能はずとて、極端まで走らんとする。露西亞の革命
を血中に瀝すが故に其熱火は血或は西伯利亞の露西亞
箱は且つ消滅するを得ざらん。
形勢は次第に變遷しぬ。前年既に多量なりし社會黨
の俱樂部は更に一層數を増して、當時は殆んど露西亞

る各階級を含み、
されど猶ほ皇帝
を以て其俱樂部を
是等露西亞の禁錮
て其中に革命黨の
家族に、悉く東部
ワンダは其階級
近く席を占めて煙
レイモン、ヤベ
二人なりき。レ、
や否、忽ち切な
「何故でも此夜
「それでは、
「若しやの事
「たや、住
「貴族の無法に
「それは、
「通人とは違ひ
「眞實に、露
云へり」だから
「其通りだ」と
「是れ取引大切
「下る様に。
「貴族は餘ん
「是れは、
「と云ひしが明
「レイモンは殆
「乘客は船が入
「渠等は社會の
「中には市人
「たる不注意の
「服を折りし
「も實じき
「相説は何れも
「此俱樂部内
「見の人をして
「と語るに互に
「俱樂部には公
「人前に現なり
「此は渠等
「船を舟つ
「て、
「ボート万